

北日本新聞八月十一日五面の「描けるか成長軌道は夏とやま経済」の記事を読んで。

川西 美穂

今、北陸新幹線の影響で、富山県がテレビやマスコミで取り上げられ、日本中から多くの注目をあびています。

ちやうど気になっ、ていたことが記事になっ、ていたので選びました。

記事には、「富山、石川、長野、名古屋……」

県内外のナンバーの自動車は巨大な駐車場に次々と流れ込む。オープンから間もなく一ヵ月となるが、夏休みとあって、客足は衰える様子はない。と書いてあります。

新幹線の影響もあり、小矢部市に色々な県から観光客が沢山おとずれているようです。それで、アウトレットパークに来た観光客か、他の今まであった施設などに来てくれるように地域で町おこしをしているそうです。

そしてもう一つ、小矢部のとなりにできたのが、イオンモールとなみです。

記事には、

「イオンモールとなみも十四日の開業から大勢の買い物が連日訪れている」。

「アウトレツトの影響はしばらく注視する必要がある」。

と書いてありました。

富山大和の記事でも、アウトレツトパークができたことについて、

「富山大和も、表情を引き締め、夏商戦に懸ける決意を語った」と書いてありました。

アウトレツトパークができたことで、今まであった店舗もそれになれないよう、それぞれが工夫し、業績を上げようとしていることがわかりました。

こうして富山県は、色々な店が競い合っ  
て町が活性化していています。

最近、富山を舞台にしたドラマや映画が数

多くつくられていきます。その理由として、富山の色々な名物やロケ地に観光客を呼び込むために、富山がPRしているようです。

このように北陸新幹線の開通、新しい店舗の競い合いによる店の活性化、土地のPRなどによって、富山県により多くの人々が訪ずれ、より良い経済効果につながっていると考えられます。

これから、富山県の現状をいじし、より発展させるにはどうするべきか、よく考えていくことが大切だと思います。